

白井市・白井市議会のうごき	市民のうごき
1994(H6) 文化センター開館 ※開館以来、大規模な改修は行わず 2019(R元) 大ホールの吊り天井が、国の安全基準不適合で落下の危険があると判明 ↓白井市は、議員と市民に説明せず、議会を通さず「予備費」を流用し、工事の実施設計を実施 ↓12月17日 全議員から笠井市長に、「行政運営報告に関する申し入れ」を提出 ※申し入れ概要⇨大ホール天井の危険について議会に報告がなかったことはまことに遺憾だとし、人命に関わること、大事業の変更、災害対策などについて、今後は決定前に速やかに議会への情報提供か説明を行うよう申し入れた 2020(R2)3月議会 危険な「大ホール天井のワイヤー補強工事費」を含む予算が可決 ※市は、安全基準に適合した「準構造化」工事でなく、安さと工期の短さを優先し、安全基準に適合せず、大地震時に「天井落下を防げない可能性のある工法」を選択 ※議員から、予算への附帯決議案を提出 ↓賛成13名、反対6名で可決 決議の内容⇨「いつ起こるかわからない首都直下型地震に備え、文化センターの安全対策を速やかに講じるために、着手されていない文化センターのあり方の検討を速やかに開始し、大ホール天井を含めた大規模改修工事計画を策定すること」 2021(R3)1月 「文化センターのあり方検討委員会」開始 ※2021年1月28日～23年1月24日まで、全9回開催。会長が改修費の削減を重視し、4施設の廃止を意見し、委員のプラネタリウム維持の意見を否定するなど、問題のある進行が散見 2021(R3) 第1回「市民アンケート」と「利用者アンケート」(市内22の文化団体・市内全中学校関係者等)「運営者(職員)・4施設の運営協議会からのヒアリング(意見聴取)」 2021(R3)9月 市民参加による「文化センターのあり方検討ワークショップ」開始 ※全5回(9月28日～翌3月1日)の話し合いテーマ⇨①白井と文化センターの自慢・不満、②施設の「コンセプト」残したい・新たにほしいもの、将来どんな施設にしたいか、③施設に必要な機能、④必要な機能の規模・設備、⑤より多くの市民参加に必要なこと 2022(R4)1月29日 文化センター施設の裏側見学 「バックステージツアー」2回開催 2023(R5)3月2日 「あり方検討委員会」から教育委員会に「文化センターのあり方検討に関する提言書」提出 提言書の主な内容⇨大ホール音響設備等の機能縮小、図書館の本の数の削減など全面的な機能縮小を提案。プラネタリウムは機能「維持」か「縮小・廃止」か決められず、判断を教育委員会に任せた 2023(R5)5月2日 「教育委員会による文化センターのあり方に関する方針」を決定 ↓その後、市が教育委員会の「方針」を「白井市の方針」とする ① 2024(R6)4月1日 「白井市文化センター改修基金」「文化センター大規模改修・準備室」設置 2024(R6)7月16日 「文化センター大規模改修・基本計画策定業務」を行う事業者を選ぶ、公募型プロポーザル(契約に至らず) 2025(R7)2月13日 「文化センター大規模改修・基本計画策定業務」を行う事業者を選ぶ、2回目の公募型プロポーザル ↓6月16日、(株)NTTファシリティーズと契約 (契約期間⇨2025年6月17日～26年6月30日) 2025(R7)10月6日 市民アンケート(2025年8月26日～9月15日)の結果を公表 2026(R8)1月16日 大規模改修基本計画策定に係るサウンディング型市場調査を実施 ※10事業者と市が、今後の事業、改修工事、施設運営の官民連携の導入可能性などについて対話 2026(R8)2月10日 大規模改修基本計画策定の方向性(大改修の基本計画構成や検討項目、スケジュール)を公開 ※市民意見などが反映され、大ホールやプラネタリウム機能の維持を目指す方向に修正。この時点では、3月に基本計画策定、4月にパブリックコメント、6月に基本計画確定の予定 ※市から議員には、2月6日の議員全員協議会(全協)で説明 ② 2026(R8)3月 2021年の「あり方検討会」資料の、「施設の現状回復にかかる改修概算額(約38.8億円)」が、配管の劣化や物価高騰を考え、約82.1億円に増額との予測が出る 2026(R8)4月 財政推計上、82億の改修が可能か検討 2026(R8)5月 財政課・企画政策課と教育部文化センターで協議 ↓市民サービス市の財政への影響が大きく、改修は実現性が非常に低いと判断 2026(R8)6月2日 教育委員会↓「大規模改修基本計画は(案)のまま終了」と承認 2026年(R8)6月3日 行政経営戦略会議 「改修基本計画」策定は(案)の段階で終了と承認 ↓劣化度調査などを元に、維持管理や修繕を行いつつ、公共施設の最適配置の方針や「白井駅西白井駅周辺のビジョン」との連携も含めて、さまざまな可能性を検討することに 2026年(R8)6月8日 市から議員に議員全員協議会で、大規模改修自体の見直しを説明 ③	2019年第4回白井市議会 市民が「文化会館大ホール天井の安全化改修に関する陳情」を提出 陳情内容⇨市が、地震時に大ホール天井の落下が防げない改修工事の方法を選んだため、「市議会から市に、日本建築学会などの知見と住民合意に基づいた方式にするよう要望ほしい」 ↓結果⇨不採択(賛成8、反対11) 「あり方検討委員会」委員14名のうち、5名が市民 ワークショップには、毎回13名～18名の市民が参加 ※前向きな意見を出してもらったため、改修費の話は最終日に説明された。意見は「あり方検討会」で共有されたが、会長は参考程度と言って軽視し、提言書への反映は不十分 バックステージツアー参加者は各回12名以内 参加者はアンケートにも回答 2023年4月 市民団体「白井市文化センターを未来につなぐ会」発足 ※多くの市民が文化センターを利用し関心を高めてくれるよう、各種イベントを実施 2024年9月 「未来につなぐ会」による署名開始 署名の主旨⇨①大ホール音響照明設備の維持、②中ホール用途の維持、③図書館の本を減らさない・車いすでも使いやすい広さ・無料学習室の維持、④郷土資料館の充実と機能維持、⑤プラネタリウムの機能維持 ↓2589筆を白井市に提出 2025年12月議会 「文化センターを未来につなぐ会」が、「文化センター改修に関する陳情」を提出 陳情内容⇨白井市は、2025年9月の「文化センター大規模改修に関する市民アンケート調査」結果を生かした、改修計画にしてください ↓結果⇨趣旨採択 (趣旨採択に賛成9名、趣旨採択に反対6名) ※趣旨採択⇨要望の趣旨は受け止めるが、実現できるかわからないなどの理由で、賛成も反対もしない態度

